



授業構想シート
授業構想チェックシート
Rシート

実施時期 **令和 4年 4月 ~ 3月** 学部 **高等部**

指導の形態 **作業学習** 作業種目 **園芸** 教科 **職業** 指導領域 **職業生活**

実態 実態について

- 個別の教育支援計画を確認（その子どもに必要なこと？） 個別の指導計画で領域を確認
- 知識を段階化した一覧を実態表として使用し、実態を把握
- 「できない」ことは問題でなく、つまずきの原因が重要
 - (1) この題材で達成が可能？【可能性】
 - (2) 現在の生活で必要は？【必要性】
 - (3) 将来の豊かな生活につながる価値は？【価値性】

学習指導要領の扱う段階の目標と内容

- 【知識及び技能】
高等部 I 段階 Aイ(ア)㉗ 材料や育成する生物等の特性や扱い及び生産や生育活動等に関わる技術について理解すること。
- 【思考力・判断力・表現力等】
高等部 I 段階 Aイ(イ)㉘ 生産や生育活動等に関わる技術について考えること。
- 【学びに向かう力、人間性等】
高等部 I 段階 ウ よりよい将来の職業生活の実現や地域社会への参画に向けて、生活を工夫しようとする実践的な態度を養う。

【どうなってほしいかを三つの柱で整理】

<題材①栽培の仕方や気をつけることを知る題材>

<p>【何を学ぶ? (知識)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苗づくり(種まき、鉢上げ)、定植の仕方や気をつけること 	<p>【〇と判断できる発言や姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の手本を見たり、手順や仕方を問う問いかけに答えたりして、大まかな手順や適切な仕方でもつくりや定植を行う 	<p>【大まかにどう段階化する? (詳細は題材計画で)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大まかな手順や適切な仕方のポイントとなる部分(セルトレイに種を1つずつまくなど)を中心に扱う。 ・この段階で題材②で扱う内容について生徒の気づきがあった場合は、メモに残し、題材②につながるようにする
--	---	--

<題材②決めた仕方で栽培する題材>

<p>【何を学ぶ? (知識)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苗づくり(種まき、鉢上げ)、定植の大まかな手順や仕方とその理由や効果 	<p>【〇と判断できる発言や姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大まかな手順通りに苗づくり、定植を行う ・決めた仕方で苗づくり、定植を行う 	<p>【大まかにどう段階化する? (詳細は題材計画で)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大まかな手順→仕方の順で指導する
<p>【どう学ぶ? (活動)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な種類の花を扱い、種や苗の状況生育、作業のしやすさなどから手順仕方で必要な道具を判断する状況で、づくり(種まき、鉢上げ)、定植を行い、そうした理由を説明する場面を設ける 	<p>【〇と判断できる発言や姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花の種類が変わっても、決めた手順や仕方で苗づくりや定植を行う ・決めた手順や仕方でした理由を話す ・種や苗の扱いやすさから道具を決め、その道具を選択した理由を話す 	<p>【大まかにどう段階化する? (詳細は題材計画で)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめに花AとA´を扱い、Aで習得した手順及び仕方の知識及び技能をもとにA´でそうした理由を説明する時間を設定する。次に花Bを花Aと同様に扱うようにする。数時間同じ花を扱った後、1時間内で別の花(花DE、花FG...)を扱い、様々な種類の花を扱う状況で手順や仕方を判断できるようにする ・手順と仕方が定着した段階で、道具の判断について扱う。はじめにセルトレイにまく花を扱う時間を、次に、育苗箱にまく花を扱う時間を設定する。その際、上記の手順と仕方の時と同様の指導を行う。また、教師がその道具を選択した理由について発問し、それぞれの道具のメリットを理解できるようにする。その後、セルトレイと育苗箱を選択する状況を設定し、理由をもとに道具を判断できるようにする
<p>【望む姿勢や姿は?】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・決めた手順や仕方で繰り返し作業する ・友だちと手順や仕方について話し合う ・種の数から道具を選択する ・同じ手順を決めた数だけ行うなど、手順をまとめて取り組む 	<p>【どう引き出す?】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数人で同じ作業を行い、正誤判断したり、手順や仕方を伝え合う環境を設定する ・少数(30粒程度)の種をまく際、128穴のセルトレイを選択して作業を進めた場面で、手順の手間について考える場面を設ける ・1回の授業で、複数種類の花を扱う、もしくは複数区切りの活動を設定する 	

<題材③栽培計画や苗の生育状況を見て、自分たちで計画的に栽培する題材>

<p>【何を学ぶ? (知識)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培計画が示す内容 ・鉢上げの適期 	<p>【〇と判断できる発言や姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培計画の各花の適性種まき期間を見て種まきを行うことを決める ・本葉の数などの生育状況を判断基準に鉢上げする 	<p>【大まかにどう段階化する? (詳細は題材計画で)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前題材から栽培計画をもとに種まきをするを教師が伝え、徐々に自分で判断できるようにする ・前題材から鉢上げの適期を教師が伝えたり、インターネットで調べように促したりし、徐々に自分で決定できるようにする
<p>【どう学ぶ? (活動)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な種類の花を扱い、栽培計画や生育状況から時期を判断する状況で、苗づくり(種まき、鉢上げ)や定植を行う 	<p>【〇と判断できる発言や姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培計画の適性種まき期間や苗の生育状況と授業数からどの種をいつ(いつまで)まくか、鉢上げするか、定植するかを決める 	<p>【大まかにどう段階化する? (詳細は題材計画で)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの作業を優先的に行うかをはじめは、教師と一緒に話して決め、徐々に自分たちで判断できるようにする
<p>【望む姿勢や姿は?】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちとの作業を優先的に行うかを話し合う 	<p>【どう引き出す?】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同段階の知識の生徒でグルーピングし、話し合っで決定する環境を設定する ・他のグループが可能な作業を知らせ、その時間ですべき作業を生徒が割り振れるようにする 	

【教材は?】 【教材名:】 **花の栽培(苗づくり、定植)** 【】

【仕組み】 **花の栽培の流れ**

・花の栽培には、「苗づくり」「定植」「管理」「苗の販売」「種・種子の保存」の作業があるが、「苗づくり」「定植」についてめあてを設定して扱った(左図の点線枠内)

・「種まき」「鉢上げ」「定植」に、大まかな手順と仕方を設定している。題材①で気をつけることを知り、題材②でその知識が高まるようにしたり、具体的状況を設定して思考・判断・表現したりするように計画した

・題材③では、栽培計画(左図)や苗の生育状況を判断基準にし、自分たちで計画的に栽培できるようにした

※栽培以外の活動 **苗の販売** 種、球根の保存

【全 58 時間をどう使う?(単元計画)】

	【題材①】 4月中旬~6月中旬	【題材②】 7月上旬~11月中旬	【題材③】 11月中旬~3月
知・技	教師の手本を見たり、仕方を問う問いかけに答えたりして作業し、苗づくり(種まき、鉢上げ)や定植の仕方や気をつけることを知る	・栽培の手順とその理由や効果が変わり、決めた手順で苗づくりや鉢上げを行う ・栽培の仕方と苗の生育の仕方とのつながりがわかり、決めた仕方でもつくりや鉢上げを行う	・栽培計画の見方や苗の生育状況による鉢上げや定植のタイミングがわかり、種まき、鉢上げ、定植の実施を決定する
思・判・表		・他の種類の種をまく時、種や苗の状況や生育について考え、手順や仕方を判断し、決めた手順で作業してそうした理由を説明する ・様々な種類の種をまく時、種のまきやすさやその後の作業のしやすさについて考え、使用する道具を判断し、種が大きい場合はセルトレイに、小さい場合は育苗箱に種をまき(もしくは種の大小にかかわらずセルトレイに種をまき)、その道具を使った理由を説明する	・適性種まき期間、生育状況、授業回数について考え、活動の優先順位を判断し、その時間で行う作業を決定したり、割り振ったりする
主体姿		・決めた手順や仕方で繰り返し作業する ・友だちと手順や仕方について話し合う ・種の数から道具を選択する ・同じ手順を決めた数だけ行うなど、手順をまとめて取り組む	・友だちとの作業を優先的に行うかを話し合う ・他のグループの友だちに任せる作業を話し合い、伝える

【めあて達成のための工夫は?(場面設定・教具・働きかけなど)】

【工夫点】

1. 「栽培の流れ」(図1)を提示して本時で取り組む作業を説明する
2. 「栽培計画」(図2)を提示して本時で扱う花を説明する
3. 題材②では、1回の授業で複数の花を扱う手順や仕方、道具について、そうした(選択した)理由や効果について問う。また、知識・技能を習得した段階で複数種類の種を扱う
5. 題材②の段階で、教師が「栽培計画」の見方や鉢上げ・定植の判断基準を伝え、作業に取り組むようにする

【意図(ポイント)】

1. 栽培の流れや取り組んでいる工程がどの工程につながっているかがわかるように
2. 種まき等に適期がわかることがわかり、題材③で自分で判断して栽培できるように
3. 取得した知識・技能を選択・適合できるように
4. 理由や効果から手順や仕方、道具を判断し、理解を深めることができるように
5. 題材③で自分たちで計画的に取り組めるように

図1「栽培の流れ」 図2「栽培計画」

【1時間をどう展開する?】※題材②の場合

学習活動	意図と働きかけ(主発問・みとめ・タイミングなど)	【板書・配置・教具など】
本時の活動を知ったり、前時を振り返ったりし、本時のめあてを決める	・本時の活動に見通しがもてるように、「栽培計画」「栽培の流れ」を提示し、扱う花と担当する工程を伝える ・本時の課題がわかるように、前回の取り組みを振り返りそれぞれの工程で気をつけることを決める	<p>栽培計画、栽培の流れ</p> <p>黑板</p> <p>作業台① 作業台② 作業台③ 作業台④</p> <p>道具置き場</p>
花Aの苗づくり(種まき、鉢上げ)や定植を行う	・決めた手順や仕方でした際に、そうする理由や効果が変わるように、発問して考える機会を設ける →答えられない場合は、教師が伝える(必要に応じて見本、イラスト等を活用) →答えた場合は、そうするよさを意味づける	【改善】 本時で気づいたことを次時で生かせるように、作業日誌を導入し、本時で気づいたことを毎回記入するようにした
花A´(もしくは花B)の苗づくり(種まき、鉢上げ)や定植を行う	・適切な手順・仕方・道具で作業を行った際に、種や苗の状況や生育、作業のしやすさなどから手順や仕方と道具を判断しながら作業を続けられるように、なぜそうしたかを問いかける	
本時の活動で気をつけたことを振り返る	・本時のよかった点や改善すべき点を次時に生かせるように、手順や仕方、道具について気づいたことを発表する。	

【評価】

開始時の姿(実態・課題)	指導・支援	結果
<p><題材②></p> <ul style="list-style-type: none"> ・手順が抜けたり違う仕方で行ったりする(例:種まき前に水をまかない、セルトレイに十分に土を入れないなど) ・セルトレイもしくは育苗箱に種をまいた後、教師が選択した理由を問うと答ええない <p><題材③></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「栽培計画」や苗の状況から、教師が本時でできる活動を問うと、優先的に取り組むべき作業以外を答える(鉢上げが適期の苗がある状況で、種まきを優先する) 	<p><題材②></p> <ul style="list-style-type: none"> ・手順→仕方の順で扱いねらいを焦点化した ・決めた手順や仕方でした際に、教師が理由や効果についての発問をした ・はじめにセルトレイが適している種を扱い、次に育苗箱が適した種を扱うようにした。その際、そうする理由や効果について発問した。また、その知識・技能を習得してから、両方をランダムに扱うようにした <p><題材③></p> <ul style="list-style-type: none"> ・前題材から栽培計画をもとに種まきをするを教師が伝え、徐々に自分で判断できるようにした ・どの作業を優先的に取り組むかを教師と一緒に話して決めることからはじめ、徐々に自分たちで判断できるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・種まきでは、土入れ→水まき→種まき→覆土→保湿の大まかな手順で作業できた。またその理由を述べることができた ・種まきでは、セルトレイ等に十分に土を押し入れたり、水をまいたりして作業できた。またその効果について述べることができた ・種まきでは、種の大きさや鉢上げのしやすさからセルトレイか育苗箱を選択し作業できた ・栽培計画や苗の生育状況、授業数から本時に取り組む作業を決めることができた

実践のポイント

○栽培の手順や仕方が理解できるように、課題を細分化したり、ねらいを焦点化・段階化したりする
 ・「苗づくり」(種まき、鉢上げ)、「定植」(土づくり、植えつけ)の各作業の、大まかな手順と仕方とその理由と効果を挙げ、指導内容を細分化した
 ・細分化した指導内容を易から難へ配列した後、題材計画で焦点化、段階化したねらいを設定した

○知識及び技能を習得したり、知識及び技能をもとに思考・判断・表現できるように、試行回数を確保する
 ・はじめ128穴のセルトレイを使用していたが、切断して40穴使用に改良し、試行回数を増やした

○知識及び技能を確実に習得し、選択・適合できるように、はじめの期間は同じ状況が続けて扱い、徐々にランダムに状況を設定していく
 ○習得した知識及び技能を様々な場面で、選択・適合できるように、1回の活動に複数種の花を扱う
 ・はじめに花AとA'を扱い、Aで習得した知識及び技能を選択・適合できるようにA'を扱った。その後、別の花(花DE、花FG...)をランダムに扱う状況を設定した
 ・はじめにセルトレイにまく花を扱う時間を、次に、育苗箱にまく花を扱う時間を設定した。その後、セルトレイと育苗箱を選択する状況を設定した

○手順や仕方、道具の選択の理解を深めることができるように、そうする理由や効果について発問し、説明する場面を設ける。また、グループの友だちと話し合う場面を設ける
 ・決めた手順や仕方でした際に、理由や効果についての発問や意味づけを行った。また、理解の状況に応じて段階的に発問した
 ・同段階の生徒が同じ作業台で取り組むようにし、友だちの手順や仕方の正誤判断をしたり、その道具を選択した理由を説明し合ったりする場面を設定した

○栽培計画や苗の状況から、本時の活動を決定できるように、はじめは教師が判断基準を示し徐々に自分で考えて、判断できるようにしていく
 ・題材②の段階で、教師が「栽培計画」の見方や鉢上げ・定植の判断基準を伝え、作業に取り組むようにし、題材③で徐々に生徒同士で判断できるように支援を減らした

働きかけについて (HOW TO)
 自ら考え、判断して行動する手助けをするためのもの
 活動「開始時」「途中」「つまずき」「終了時」を想定
 誘い、示範例示、助言、説明、問いかけ、盛り上げ、賞賛、励まし、認め、意味づけなどを行う
 子どもに合わせた伝わりやすいことばや提示
 抑揚や身振り、表情、子どもの好きなものなど工夫
 つまずきに対して答えでなく段階的な働きかけを
 課題遂行につながる効果的なことばかけ
 何がよかったかわかるよう即時評価
 よさや価値を伝えられる認め
 働きかけを段階的に減らしていく工夫

題材目標について
 それぞれの子どもを目標を個別化する
 授業の評価・改善ができるよう、題材の最後の姿(到達像)の具体化する
 身につけたいことを焦点化する
 前単元や題材、または、日常生活で意欲的に取り組めた工夫を活用
 例:教材の仕組み、学習環境の工夫など

教材について
 子どもに身につけてほしい知識及び技能、生活に生かせるような思考力・判断力・表現力をその教材で習得・育成できる?
 必要性を感じ、課題をもてる?
 主体的・対話的な活動は取り入れられる?
 絵、写真、ビデオなど具体物を使用するなどの工夫ができる?
 子どもが自分でルールを決めたり、役割を設定したりできる?
 子どもにとっての強化子はあある?

題材計画について
 つまずきの原因分析から、できること・わかることが段階化されている?
 子どもの学び取りの傾向から課題の引き受けや実施方法が検討・工夫されている?
 全体の計画と個別の計画がわかるようになっている?

【一次】
 仕組みを理解したり、楽しさを感じたりできる?
 活動の意味やよさが十分理解できる?
【二次】
 二次は確実な知識の習得
 子どもに到達してほしい頭の使い方がぶれていない?
 負荷がかかりすぎていない?
 支援が減る、問題の難易度が高まるなどしている?
 友だちと一緒に学ぶ場が計画されている?
 自分で考えた仕方や解決方法を生かせる仕組み?

【三次】
 できるようになったことを生かす場は設定されている?
学習環境について
 活動の流れや量、しやすさを考えた道具材料の配置?
 不要な刺激は排除している?
 仕方や手順がわかりやすく伝えられる?
 成果が見てわかる?
 自分で仕方や手順を確かめられる?
 教具は、思考(わかる)を補助できる?
 教具は一人で使えるようになる?
 期待感(してみたい!)をもてる?

学習活動について
 導入は課題理解、興味関心
 展開は知識習得のため、教具の理解や操作が適切?
 発展は定着、応用、工夫できる?
 終末は自己評価と次時への意欲
 目的や意味、よさがわかる?
 何をどのくらいどのようにするかわかる?
 課題は段階的に高まっている?
 間違いに気づいてやり直せる仕組み?
 学習の結果と目的がつながって達成感もてる?

評価について
 めあてと指導はつながってる?
 文章・文法はわかりやすい?伝わる?
 不適切な表現はない?(難しい、できないなど)

①7月～9月上旬

【うまくいかなかったこと】
 ・うまくいったこと
 ・手順→仕方の順で理解することを扱うようにすることで、苗づくりの大まかな手順と仕方を理解して取り組む姿が見られた

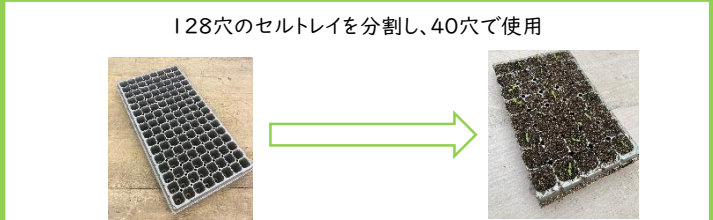
作業	手順	仕方(ポイント)	理由
a 育苗箱(種まき)	ア. 育苗箱の縁まで土を入れ、表面を平らにする	縁まで入れているか、平らになっているか	土の量が少ないと根が張らないから
	イ. 土を手で押さえる	むらなく押さえているか	水をかけると土が沈むから
	ウ. 育苗箱の縁まで土を入れ、表面を平らにする	縁まで入れているか、平らになっているか	土の量が少ないと根が張らないから
	エ. 種をまく前に、じょうろでたっぷり水をかけ土を湿らす	十分に土を湿らせているか	種が流れるから
b セルトレイ(種まき)	ア. セルに赤土を適量入れる	1/3程度入れる	土がセルトレイの穴から落ちるから
	イ. 園スコップでセルの縁まで土を入れ、表面を平らにする	縁まで入れているか、平らになっているか	土の量が少ないと根が張らないから
	ウ. 空のセルトレイをくいに押し当て土を流める	むらなく押さえているか	水をかけると土が沈むから
	エ. セルトレイの土を指で押さえる	むらなく押さえているか	水をかけると土が沈むから
② 種まき	ア. 園スコップでセルの縁まで土を入れ、表面を平らにする	縁まで入れているか、平らになっているか	土の量が少ないと根が張らないから
	イ. 種をまく前に、じょうろでたっぷり水をかけ土を湿らす	十分に土を湿らせているか	種が流れるから
	ウ. 種をまく前に、じょうろでたっぷり水をかけ土を湿らす	十分に土を湿らせているか	種が流れるから
	エ. セルに一粒ずつ種を入れ、軽く押さえる	一粒ずつ入れているか	種が土に密着しないと水分を十分に吸収せず発芽しないから

各作業の手順、仕方、理由(効果)一覧

②9月中旬～下旬

【うまくいかなかったこと】
 ・種まきの後の覆土をしない、セルトレイや育苗箱へ土入れ後に土を押さえないなど、手順や仕方、の判断が定着しないことがある

【うまくいったこと】
 ・試行回数が少ない



128穴のセルトレイを分割し、40穴で使用

試行回数を増やした例

主・対で深い学びの実現に向けた改善
 ・小さいトレイを扱い試行回数を増やす
 ・お互いの作業の様子を見て手順や仕方について話し合えるようにグループの友だちと同じ作業台で取り組む設定にする

③9月中旬～10月中旬

【うまくいかなかったこと】
 ・そうした理由や効果を問うことで手順や仕方、道具を判断しながら作業を続ける姿が見られた

【気づいたこと】
 ・理由や効果を考える場面を設定することで内容の理解が深まる

主・対で深い学びの実現に向けた改善
 ・

④10月中旬～12月上旬

【うまくいったこと】
 ・はじめは、栽培計画をもとに種まきをすることや鉢上げの判断基準を教師が伝え、徐々に自分で判断できるようにすることで、本時で優先的に取り組むべき作業を友だちと話しして決定するようになってきた

【気づいたこと】
 ・未習得の知識・技能は教師が伝えることも必要。徐々に支援を減らすことで、習得した知識・技能をもとに思考・判断・表現することができる

主・対で深い学びの実現に向けた改善
 ・

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
花A	種まき	鉢上げ		定植					
花B		種まき	鉢上げ		定植	開花			
花C				種まき		定植	開花		
花D					種まき		定植		
花E						種まき		定植	
花F							種まき		定植

栽培計画